

総合的な学習の時間指導案

令和元年 12 月 11 日 6 校時

2 年 1 組 澁川 雄大 副担任 黒澤 直子

2 年 2 組 根岸 佑太郎 副担任 本多 みち子

一本時の視点一

社会と自分との繋がりについて考える力を育てるために、KP 法で他者と協力をしながら異学年に情報を発信・伝達するプレゼンテーションを行ったことは有効であったか。

I 単元名 20 年後の将来の地域に必要な職業と自分～職場体験から学ぶこと～

II 単元の考察

(1) 単元の価値 (設定の理由)

本単元では、1 年次の「個性を生かし、将来の自分について考える」という進路学習を踏まえて、職場で働く人と接し、実社会に触れて、ルールや自己の役割について考える。そして職場体験を通して、望ましい職業観・勤労観を育てながら自分の将来や地域について、深く考え、社会と関わる力を付けることができると考える。

具体的には、職場体験前に仕事や働くことへの自分なりの考えを持たせ、その後働くことについて再び個人・班で考えさせる。さらに、自分の体験した職業を将来の地域（前橋市）にとって「必要性が高い職業か」「必要性が低い職業か」に分類しながら設定し、「20 年後の前橋市に必要な職業」として根拠を明らかにしながら探究していく。また、相手意識を持たせた学習にするため、各々の持つ意見や考え方を異学年に向けて発表させることで、課題解決を伴った自己表現力の育成ができると思われる。

これらの活動を通して、望ましい職業観・勤労観の伸長とともに、社会と関わることによる人間性の向上、更には、探究学習による学びに向かう力や協働して学ぶ姿勢を育てることができる。最終的には、自己の夢や進路に向けて真剣に考えていく態度も身に付くことが予想される。

生徒は各発達段階に応じて、総合的な学習の時間をはじめ、各教科や道徳の時間、特別活動において、キャリア教育に関わる様々な活動に取り組んできた。本学年の生徒は、1 年次の総合的な学習の時間で、「郷土の自然環境を守ろう」「地域に学ぼうー働くこと、生きることー」を通して自己を見つめ、今の自分にできる地域貢献について学習してきた。このような生徒にとって今回の単元である「20 年後の将来の地域に必要な職業と自分～職場体験から学ぶこと～」は、これまで身に付けてきた力を生かし、より現実的に自分を見つめ将来の生き方を考えることができる学習機会になることが予想できる。

(2) 生徒の実態

○【課題解決力】

本学年の生徒は、困難な課題に直面したときにそれを避けてしまう傾向にある。資料の収集や分析する力は、年度当初よりは身につけてきたものの、いくつかの資料の中から必要な資料や情報を関連づけて考え、それを比較して自分の結論や考えを持つことができる生徒は多くない。よって、指導の際に実社会・実生活の中にある複雑な問題状況の解決に取り組めるよう、答えが一つに決まらない学習活動の設定や男女が多く対話できるような班活動の場を設定するとともに、多くの意見を取り入れながら個人で考えた意見を集団で共有するような探求的な学習方法を身につけさせることで、様々な課題を解決できるようになると考えられる。

○【自己表現力】

自分を見つめる学習は1年次に学習しており、各々の個性として、良いところや悪いところなどを自覚している生徒が多い。しかし、各々の興味関心に基づき進める学習においては、自分の考えを意欲的に発表できる生徒は少なく苦手だと感じる生徒が多い。従って、班活動でのやりとりを観察し、個々が意思を持って決めたことについて責任を持って取り組めたり、意見や発言に自信が持てたりできるよう助言をしていく必要がある。

○【社会と関わる力】

1年次の頃と比べると、場に応じた挨拶や言葉遣いは定着してきたと言えるが、授業外の場面での定着は難しい。委員会の仕事をはじめ、係活動の仕事などの取り組みは熱心に行う姿が見られるが、他人の目を気にしてしまい自分の意思で行動できない生徒もいる。また、家族や学校の教師、友達との会話や挨拶などを通してのコミュニケーションを取ることはあるが、地域社会の人たちへの関わりは少ないように感じる。他者と協力して学習に取り組むという姿勢がある生徒は多いので、職場体験学習による職場で働く人との関わりを通して、実社会とのつながりを意識させたい。

(3) 単元の系統

【中学校 1 学年】

「郷土の自然環境を守ろう～尾瀬学習での経験を踏まえて～」

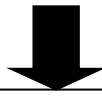
「自分の“性格”を生かして、将来を生きること」



【中学校 2 学年】

「20年後の将来の地域に必要な職業と自分～職場体験から学ぶこと～」

「上級学校調べから考える、自分の目標」



【中学校3学年】

「地域の違いや特色をつかみ、良さを知ろう」

「卒業・未来をみつめよう」

Ⅲ 単元の目標

職場体験学習を通して働くことの目的・意義を学び、目の前の課題に対して解決しようとする態度を育て、今後の将来や人生につなげて考えることが出来るようにさせる。

Ⅳ 評価規準

○全体計画に示す観点別に記述する。

資質 能力 育 て た い	【学び方を身に付ける】 課題解決力	【自己を見つめる】 自己表現力	【社会を見つめる】 社会と関わる力
評 価 規 準	<ul style="list-style-type: none">・働くことを考え課題や計画を立てながら解決している。・職場体験を通して情報の収集・選別・分析をし、活用しながら、新たな課題を解決している。・職場体験やまとめなどを、班活動を通して協力しながら行っている。	<ul style="list-style-type: none">・自己有用感を持って探究活動に取り組んでいる。・自分の意見を他者に発表して、課題解決に繋げている。	<ul style="list-style-type: none">・職場体験学習を通して、社会における自己の役割を認識している。・体験やまとめでの発表を通して、自分や地域の将来像を考えている。

Ⅴ 指導方針

【課題解決力】

- 「仕事」や「働くこと」について考えを深めるために、仕事や働くことについて考え、将来就きたいものの職業について調べさせる。(やりぬく)
- 前橋市に必要な職業や課題を明らかにするために、高齢化や経済面などの視点から考えさせ、表現させる。(きめる)
- 前橋市で「必要性が高い職業」と「必要性が低い職業」を考えるために、自分たちが知っている職業を高齢化や経済面などの視点から選別させる。(きめる)
- 友達と協働して学習させるために、班で目標を共有し、コミュニケーションをとりながら協力し、まとめさせる活動を行う。(きめる)

【自己表現力】

○課題を解決するために、本やインターネットによる情報収集・分析を行い、根拠を明らかにして調べられるようにする。(みつめる)

○自分を理解する学習活動への興味関心を高めるために、職場体験の前後で働くために必要なことをウェビングマップで表現させたり自分の考えを友達に伝えたりさせる。
(みつめる)

○自分の意見を他者に発表し課題解決できる力を身につけさせるために、職場体験活動のまとめをKP法でまとめ、異学年(1年、3年)に発表させる。(きめる)

【社会と関わる力】

○職場体験活動の事前学習で挨拶や言葉遣いといった礼儀やマナーについて確認し、学んだことを各班で自分の役割やルールとして決定し、体験活動を行わせる。(つながる)

○自分と友達との間の職業観の違いに気づき、課題を発見させるために、職場体験やまとめの活動の中で学んだ、働くことの意義や必要性、自分の今できること(役割)を振り返らせる。(えがく)

○20年後の将来に必要な感のある職業についての考えを深めさせるために、体験前後で職業観の比較検討を行わせ、働くことについて、個人や班の友達とまとめさせる。(つながる)

VI 活動計画：「職場体験活動」(本時は43/44時)

学習過程	時数	主な学習活動	評価項目
つかむ	3 2	○将来就きたい職業を調べる。 ○「仕事」、「働くこと」についてウェビングマップを使い、自分の考えを広げ、課題をみつける。 ・今の自分にとって仕事をするために必要だと思うことを、ウェビングマップを元に発表する。	◎働くことについて考え、計画を立てることが出来る。【課題解決力】
	3	○自分が知っている職業について今後前橋市の地域で益々必要となるものと必要性が低くなるものを選別する。 ・将来の地域に必要な職業を、【高齢化・労働力・環境面・経済面】などの側面から考える。	◎自分の意見を他者に発表することが出来る。【自己表現力】 ◎地域に必要な課題を解決するための情報収集・選別・分析ができる。【課題解決力】
追究する①	20	○各体験先で、実際に体験活動を行い、活動の振り返りを行う。	◎職場体験に自己有用感を持って取り組むことが出来る。【自

追究する② (生かす・ 広げる)	2	○体験後に再度「働くこと」についてウェ ビングマップを書き、体験前のもとの比較 する	己表現力】 ◎職場体験を通して、 社会における自己の 役割を認識できる【社 会と関わる力】
	2	○ウェビングマップをもとに、各班で新た な課題を見つける。	◎職場体験を通して、 自分や地域の将来像 を考えられる。【社会 と関わる力】
	2	○本やインターネットで情報収集する。	◎まとめを、班の友達 と協力しながら行う ことができる。【課題 解決力】
	3	○班ごとに自分の言葉や調べたことをもと に課題解決しながら「将来の地域(前橋市)」 に必要なことをまとめていく。	◎新たな課題や問題 に対してより良い解 決方法を見つけるこ とができる。【課題解 決力】
まとめる	4	○職場体験学習の内容をKP法でまとめる。	
	2	○KP法にまとめたことを、他学年(1年、 3年)と学年内に向けて発表する。	◎自分の意見を他者 に発表し、課題解決に 繋げることができる。 【自己表現力】
本時	1	○職場体験活動の学習を通して感じたこと をまとめる。	◎まとめの活動を通 して、新たに自分や地 域の将来を考えるこ とができる。【社会と 関わる力】

VII 本時の学習

(1) ねらい

プレゼンテーションを通して、「将来の前橋市に必要な職業」と自分たちの“役割”を考
えることができる。

(2) 準備

【生徒】筆記用具、総合ファイル、発表原稿、学習プリント

【教師】学習プリント、タブレット、タイマー、ホワイトボード、磁石、テープ

(3) 本時の展開

時間	学 習 活 動	指導上の留意点・支援 評価項目
3分	○本時の流れと本時のめあてを確認する。 発表の準備をする。	●学習の流れとめあてがつながるよう留意しながら伝える。
めあて 「将来の前橋市に必要な職業」と自分たちの“役割”を考えよう！		
40分	○各班で3年生に向けての職場体験学習についての発表を行う。 ○4回繰り返す。(10分×4) ・発表…4分 ・質疑応答…2分 ・まとめ、移動…4分 ○質疑応答を行う。 ○発表・質疑についてのまとめを行う。	●各班(2～3名)で3年生に向けての職場体験学習についての発表を行わせる。 ●少人数で班編成することで、一人一人の発言の機会を多くし、役割に対する責任感などを持たせたい。 ●プレゼンテーションは、発表内容の履歴が分かるようにKP法を用いて発表をさせる。 ●机間指導を行い、発表が滞っていれば助言をする。 ●活発に質疑が行われるように机間指導を行い、必要に応じて質問を行う。 ●聞き手(3年生)からは質問以外にも意見や感想などを伝えさせる。 ●2年生は発表の反省をさせ、次の発表がより良いものになるよう準備を整えさせる。 ●3年生には発表を聞き、昨年の自身の体験をもとに、「将来必要な職業であるか」や自分の役割について考えさせたり、質問させたりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">○プレゼンテーションや質疑応答の際に、自分の考えを相手に伝えようとしている。【自己表現力】</div>
7分	○本時のまとめと振り返りを行う。 めあてについて振り返り、各自の言葉で記入する。	●数名選出し、本時のめあてに即した成果等を発表させる。